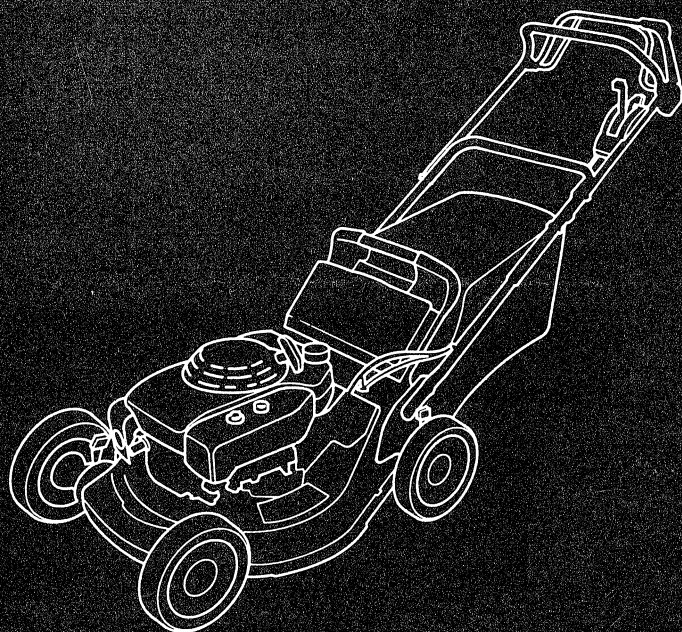




歩行型芝刈機

HRC216

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店にお気軽にお申しつけください。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた芝刈機で安全かつ能率的な芝刈り作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は

- 芝刈り作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目 次

安全にお使い いただくために	これだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル		7
各部の名称と取扱いをおぼえましょう		9
エンジン回転調整レバー		11
走行クラッチ レバー		11
刈刃クラッチ レバー		12
走行変速レバー		12
刈取り高さ調整レバー		13
燃料コック レバー		13
収納袋		13
作業前に点検、調整しましょう		14
作業前の点検		14
ガソリンの点検		15
エンジン オイルの点検		17
エア クリーナ(空気清浄器)の点検		18
刈刃の点検		19
各部の締付けの点検		21
収納袋の点検		21
エンジンのかけかた		22
運転操作のしかた		24
1. 刈取り高さの調整		24
2. 走行変速レバー		25
3. エンジン始動		25
4. 運転操作		25
5. 刈取り作業		27
6. 収納袋の脱着		29
エンジンのとめかた		30
定期手入れを行いましょう		31
定期点検		31

点検・整備のしかた	32
エンジン オイルの交換	32
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃	34
点火プラグの点検、調整、交換	35
走行変速レバー ケーブルの点検、調整	36
刈刃クラッチ ケーブルの点検、調整	38
長期間使用しないときの手入れ	39
故障のときは	42
主要諸元	44

警告

- ・あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- ・この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- ・間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。
- ・適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
- ・本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- ・過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- ・日常点検、整備を行い本機を常に良好な操作状態においてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などを近づけないでください。
- ・燃料はこぼさないように注意して給油限界位置をこえないように補給し、燃料タンク キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、良く乾かしてからエンジンを始動してください。
- ・屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- ・カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- ・誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

警告

- ・衣類や頭髮、手ぬぐいなどが巻き込まれないように作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。
- ・夜間や悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。
- ・放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。
- ・土や砂利などの上では刈刃を回転させないでください。石などの異物が飛び出すおそれがあります。
- ・収納袋を取外して作業しないでください。刈取った芝や小石などが飛び出し大ケガをするおそれがあります。
- ・収納袋を取外すときは、エンジンを停止してください。
- ・本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。点検は必ず厚手の手袋を着用してください。
- ・本機を使用する前に収納袋を点検してください。すり切れたり穴のあいている物、また縫い目がほころびている物は新品に交換してください。
- ・本機は5℃以上40℃以下の環境でご使用ください。外気温が4℃以下になるような環境で使用すると防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。
- ・本機は芝刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- ・芝が濡れていたり、雨天のときは芝刈り作業をしないでください。転倒の危険が増します。

●作業中

- ・エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤ってさわると大ケガをします。
- ・作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。
- ・作業中はハンドルをしっかり持ち足元に注意して行ってください。転倒するおそれがあるので走らず本機の色度に合わせて作業してください。
- ・移動、方向転換するときは、刈刃を停止させ、走行クラッチレバーのみ使用して行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。
- ・傾斜地での芝刈りは、上下方向でなく、横方向(等高線方向)に行ってください。また急な斜面では作業しないでください。転倒するおそれがあります。

警告

- ・ 本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。
- ・ エンジン運転中は、刈取り高さの調整をしないでください。誤ってレバーを操作されると本機が動き出し大ケガをするおそれがあります。
- ・ 作業中障害物に当たったときはすぐにエンジンを停止させ、万一の始動を防止するため点火プラグ キャップをはずし(35頁参照)、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷のある部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。
- ・ 過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。
- ・ エンジンをかけたまま本機を芝の上に放置しないでください。マフラの熱で芝をこがしてしまうばかりでなく、誤って操作されると思わぬ事故の原因となることがあります。

●作業が終わったら

- ・ 各部の点検・調整・清掃を行うときは、エンジンを停止し、各部が十分に冷えてから行ってください。
- ・ 長期保管前には、燃料タンク内の燃料を抜取り本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。
- ・ 車への積み降しは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。
- ・ 運搬時には、転倒や落下しないよう確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレータの燃料を抜いてください。

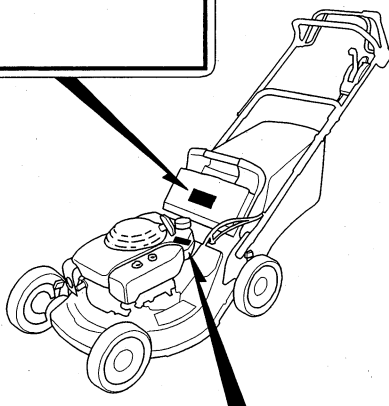
●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルを全て読んでからご使用ください。

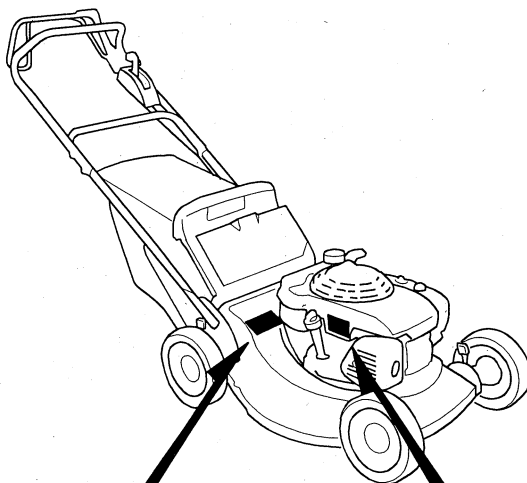
ラベルをはっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

⚠ 警 告	
	死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取り扱うこと。 ■ 刈刃で手や足を切ることがあるので、 ● 刈刃カバーには手足を近づけないこと。 ● 放出カバーを開ける時にはエンジンを停止すること。 ■ 放出物でケガをするおそれがあるので、 ● 芝刈り作業前に芝地を点検し石や異物を取り除くこと。 ● 人や動物を近づけないこと。 ● 目の保護具を着用すること。



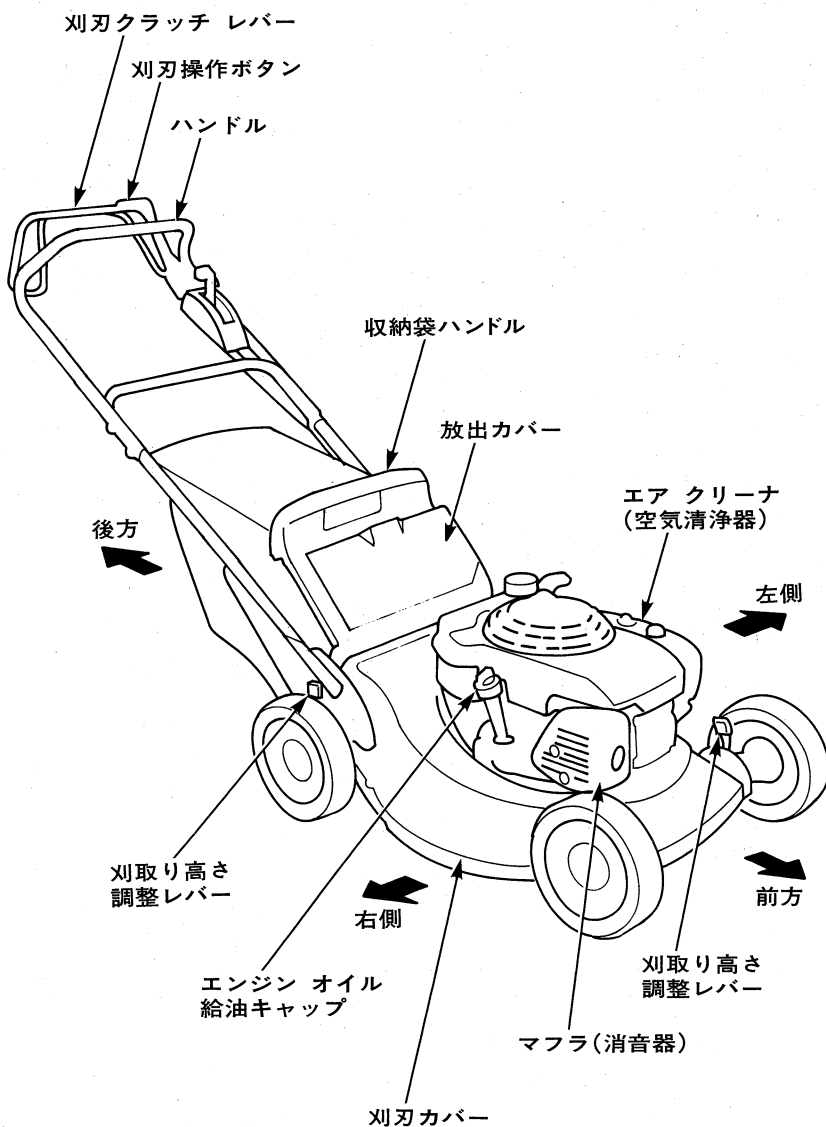
⚠ 警 告	
 火 気 厳 禁	火災や爆発により死傷するおそれがあるので、 ● 給油時にはエンジンを停止すること。 ● 給油口に火を近づけないこと。

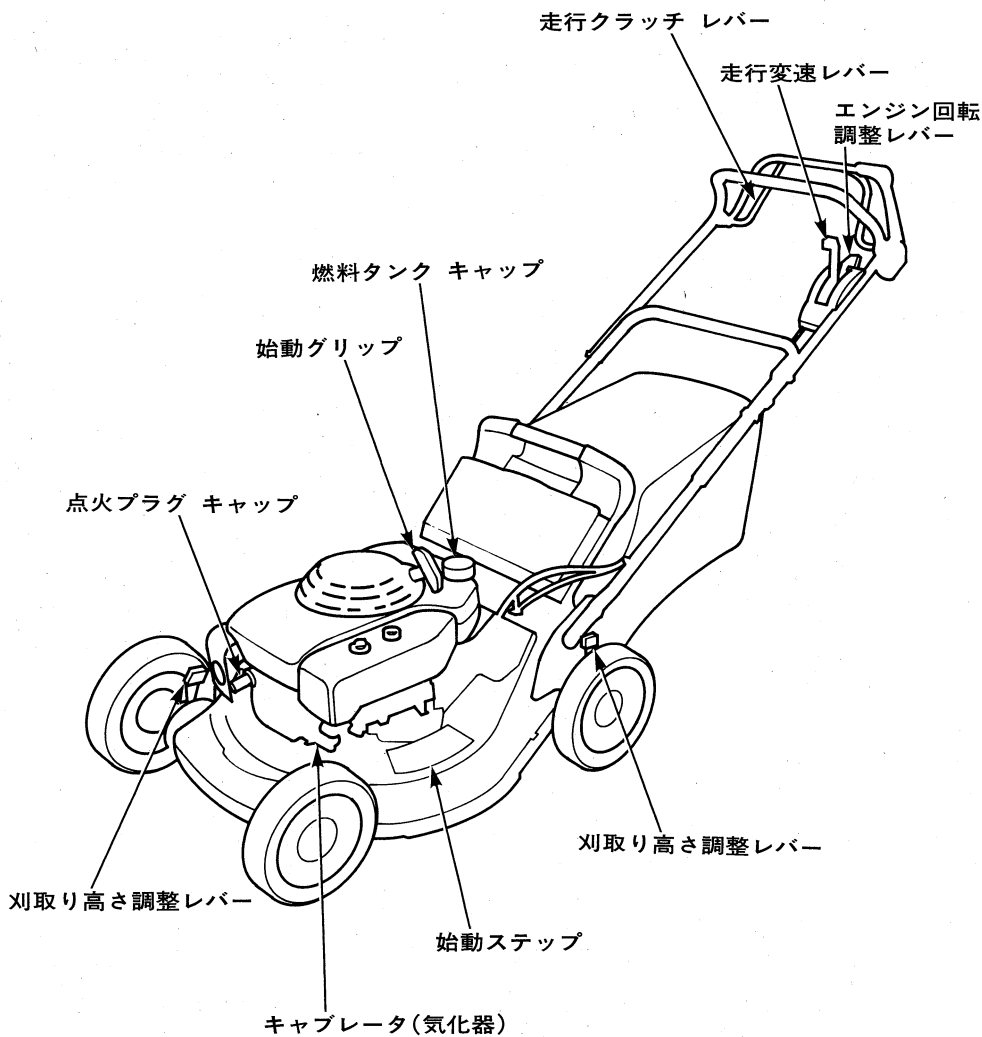


⚠ 危険	
	回転している刃にふれると、 死傷することがあるので、 近づかないこと。

⚠ 注意	
	ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

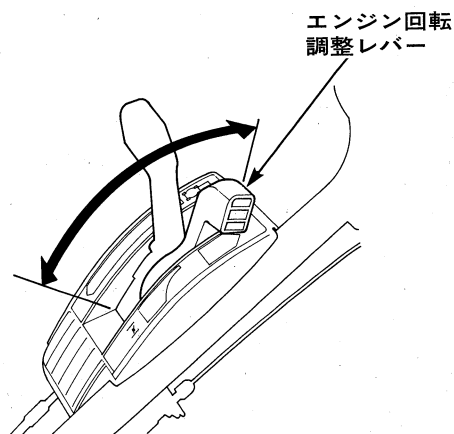




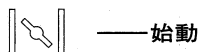
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。

エンジン始動時、運転中、停止時に操作します。



(レバー位置)



—— 始動

チョーク



—— 高速



—— 低速

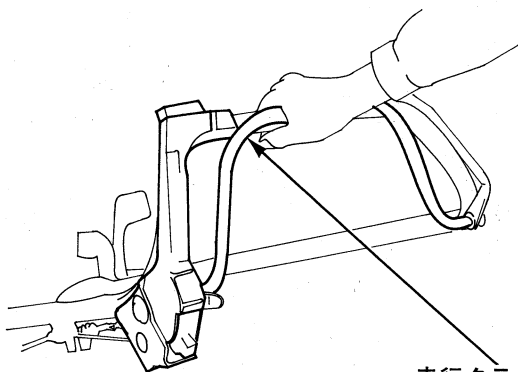


—— 停止

停止

走行クラッチ レバー

走行クラッチ レバーを握ると走行し、はなすと止まります。



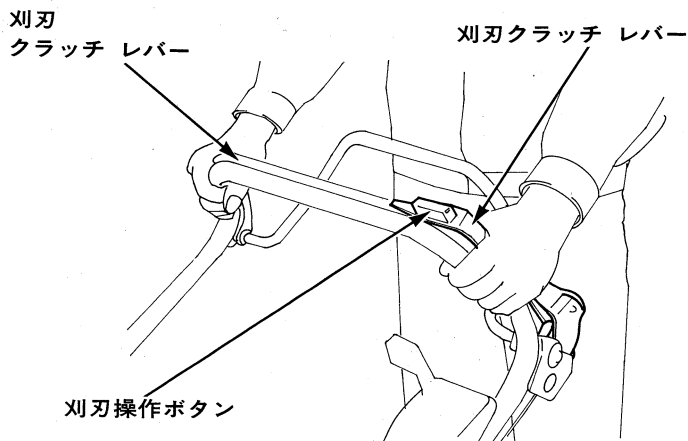
走行クラッチ レバー

刈刃クラッチ レバー

刈刃を回転、停止するものです。

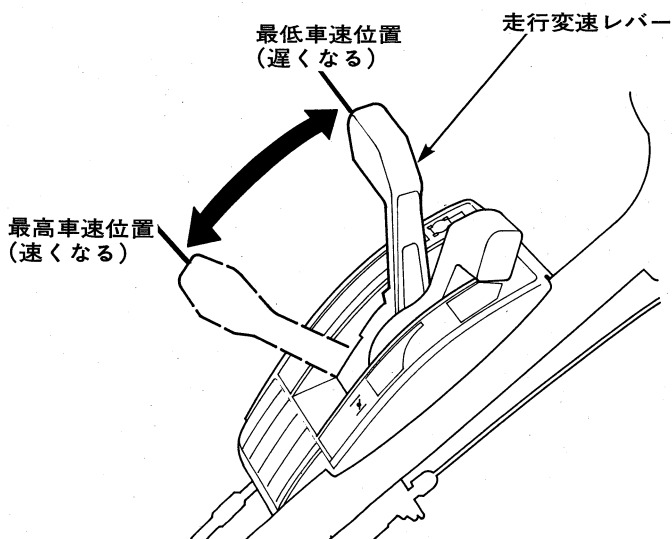
刈刃操作ボタンを押しながら刈刃クラッチ レバーを握ると刈刃が回転します。

レバーを離すと刈刃は停止します。



走行変速レバー

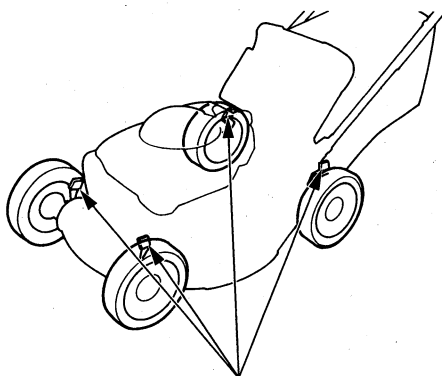
走行速度を変えるとにきに操作します。(25頁参照)



刈取り高さ調整レバー

芝の刈取り高さを調整するときに操作します。

レバーを操作して位置を変えることによって前側は6段階、後側は5段階に刈取り高さを調整できます。(24頁参照)

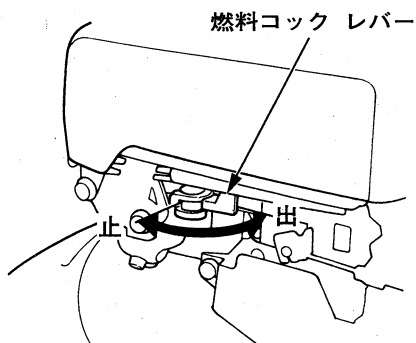


調整レバー

燃料コック レバー

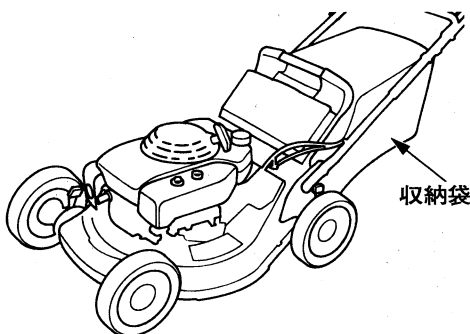
燃料タンクからキャブレータまでの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に“止”“出”の位置に合わせてください。



収納袋

刈取った芝を収納する袋です。



⚠警告

- 点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップをはずしてください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと本機を損傷するばかりでなくあなたや、あなたのまわりの人に大ケガをさせるおそれがあります。
- 点検整備や保管時に本機が傾く可能性がある場合には、燃料漏れを防ぐために燃料コック レバーを“止”の位置に合わせてください。漏れた燃料が引火するおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………燃料の量（15頁参照）、エンジン オイルの量（17頁参照）は規定量はいっていますか。
燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
エンジンまわりのゴミ、枯れ芝などはないですか。
- レバーの作動……………レバーの遊び量（36～38頁参照）は規定通りですか。
引っかかりがなくスムーズに作動しますか。
- 刈刃の状態……………刈刃締付けボルトにゆるみはないですか。
刈刃に割れ、欠損、曲がり、摩耗はないですか。
- 各部の締付け……………各ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……………被覆の破れや切れはないですか。
配線、ケーブルのはさまりはありますか。
- エンジンの始動、停止…エンジン始動時、回転中に異音はないですか。
エンジン スイッチで確実に停止しますか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店にお申しつけください。

ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンの補給は

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で補給してください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。

静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。

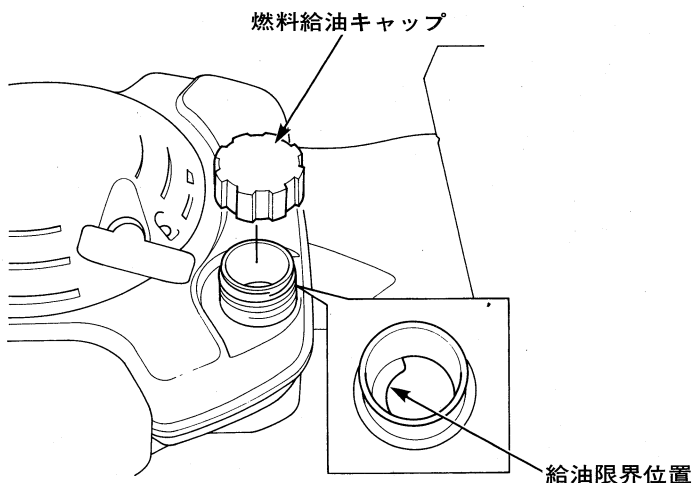
本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- ・ ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- ・ 燃料は注入口の口元まで入れず給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

点 検

燃料給油キャップを外し、ガソリンがあるか点検します。

少ない場合は補給してください。



補 給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：2.0ℓ

- 燃料給油キャップを外し、給油限界位置を超えないように補給します。
- 補給後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

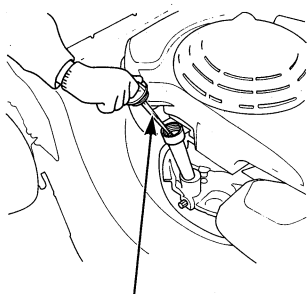
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン オイルの点検

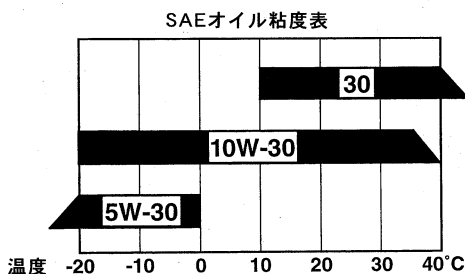
点 検

エンジン オイル給油キャップを外し、ゲージ部のオイルをふき取ります。キャップを締込まずに、キャップのネジの部分が給油口に当たった位置でキャップを抜取り、オイル量を確認してください。

オイル量が少ないときは、上限以内までオイルを補給してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は32頁参照)

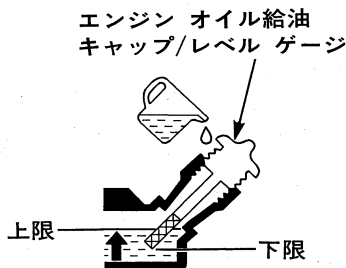


エンジン オイル給油キャップ/レベル ゲージ



補 給

- ・エンジン オイル給油キャップを外し、新しいオイルを上限以内まで補給します。



- ・推奨オイル(4 サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W—30オイルをご使用ください。

取扱いのポイント

- ・低温時(気温10℃以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- ・エンジン オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

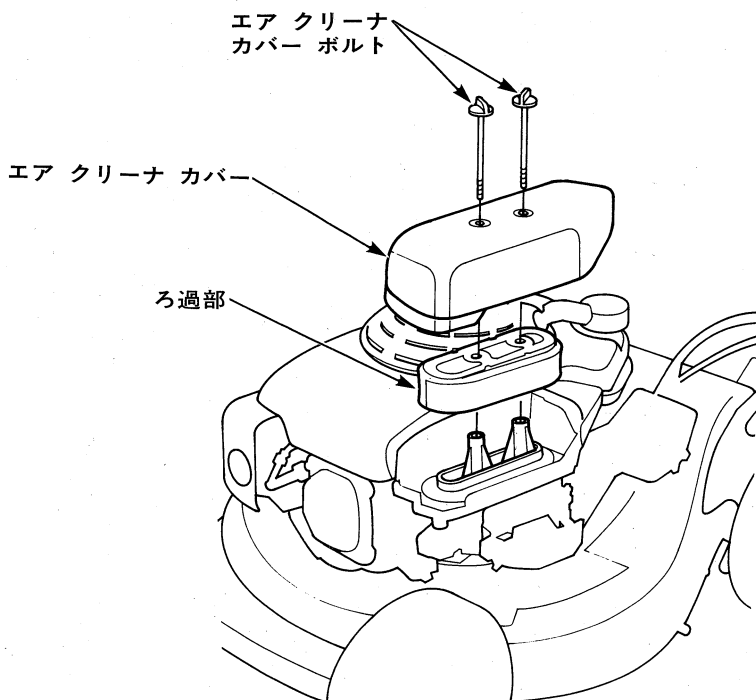
エア クリーナ(空気清浄器)の点検

《点 検》

1. カバー ボルトをゆるめ、エア クリーナ カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン、紙)の汚れを点検します。
3. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃または交換を行ってください。
(清掃方法は34頁参照)

取扱いのポイント

- ・エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン・紙)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

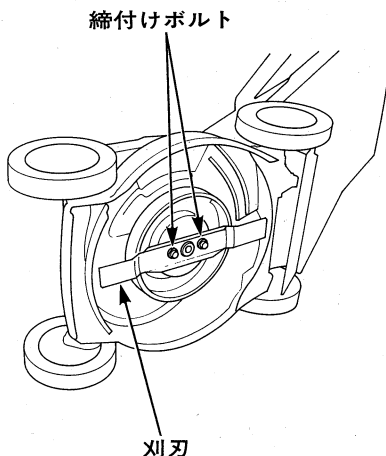
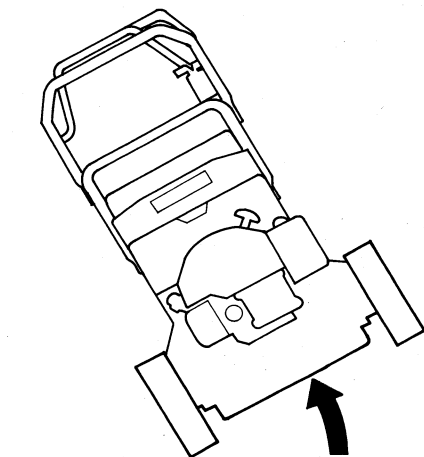


刈刃の点検

⚠警告

- 作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆりみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当るなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。交換するときはお買いあげ販売店にご相談ください。
- 刈刃の点検をするときは、エンジンを停止し点火プラグ キャップを外してから厚手の手袋を装着して行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。
- 本機を左側(キャブレタ側)に倒さないでください。ガソリンがこぼれ危険です。

1. エンジンを停止し、点火プラグ キャップを外します。
2. 燃料コック レバーを“止”にし、本機を右側に倒します。

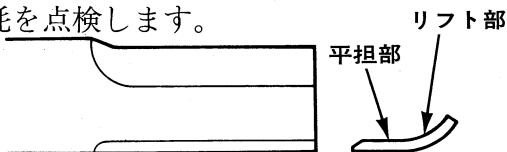


取扱いのポイント

傾斜させたまま放置しないでください。始動性が悪くなることがあります。

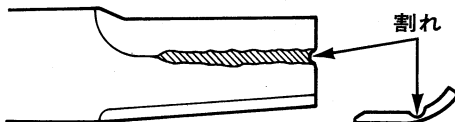
3. 刈刃の割れ、曲り、摩耗を点検します。

新品



- ・刃先が摩耗して丸くなってきたらお買いあげ販売店で研いでください。
- ・下図のように異常な状態になっていたらお買いあげ販売店で交換してください。

割れ

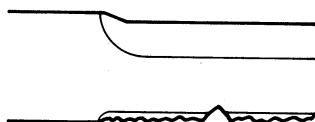


⚠ 警告

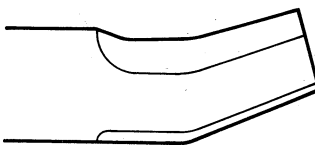
特にリフト部に割れが発生すると、刃先が切損して飛び出すおそれがあるので使用しないでください。



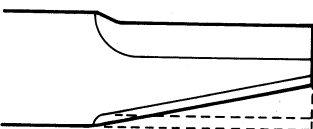
欠損



曲り



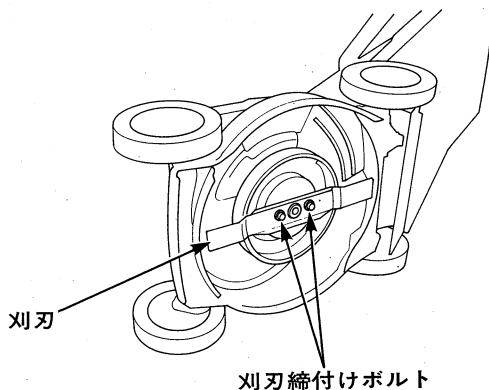
摩耗



- ・乾燥した土や砂を含んだ場所で使用すると刈刃の摩耗が早いため頻繁に点検してください。

各部の締付けの点検

- 刈刃締付けボルトの締付けは完全ですか。
- ハンドル固定ボルトのゆるみはないですか。



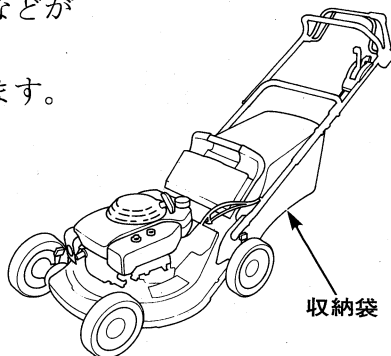
収納袋の点検

⚠ 警告

収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷している場合は新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

点 検

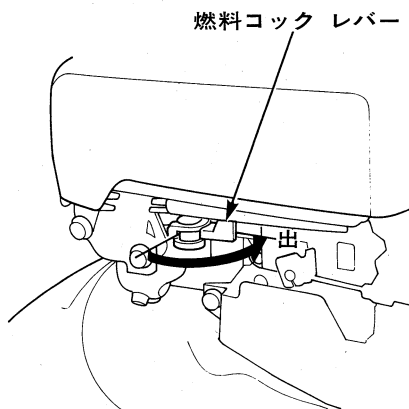
1. 目詰まりがないか点検します。
収納袋が目詰まりしていると収納能力が落ちます。水洗いし十分に乾かしてから使用してください。
2. すり切れ、破れ、縫い目のほころびなどがないか点検します。
3. 確実にセットされているか確認します。
(脱着方法は29頁参照)



⚠ 警告

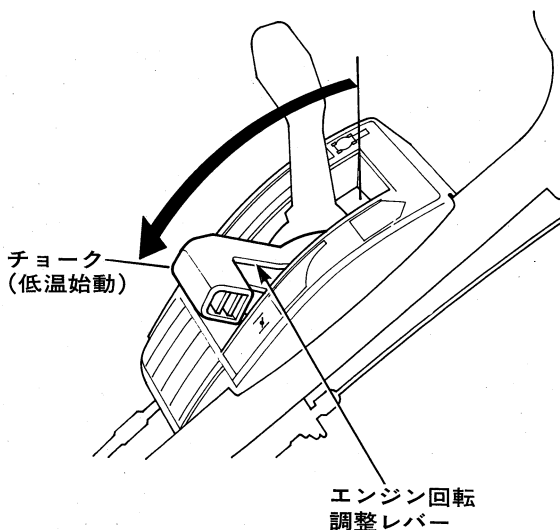
屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

1. 燃料コック レバーを“出”に合わせます。



2. エンジン回転調整レバーを“チョーク”(低温始動)の位置に合わせます。

● エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときは“”(低速)の位置で始動します。

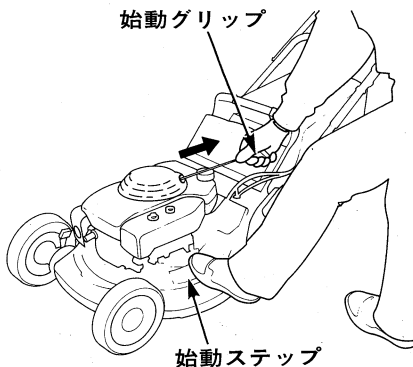


3. 始動ステップに足をのせ本機をしっかりと押え付けて、始動グリップを引いて重くなる位置をさがし、勢いよく引きます。

取扱いのポイント

始動グリップを引き上げた位置から手を離さないでください。グリップや回りの部品を破損することがあります。また運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響を与えます。

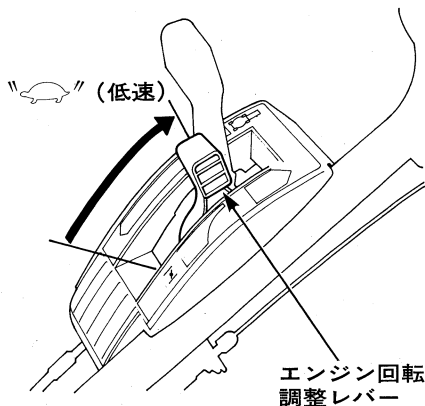
- エンジンの始動は、本機が安定する平坦な場所で行ってください。
- 始動グリップを引くとき、後方に人がいないか確認してください。



4. 2～3分間暖機運転を行います。

“チョーク”の位置で始動したときはエンジン回転が安定したら、エンジン回転調整レバーを“”（低速）にします。

- 暖機運転を行うことは、エンジン各部にオイルをゆきわたらせ、エンジンの寿命を長持ちさせます。



取扱いのポイント

芝の上での暖機運転はさけてください。マフラなどの熱により芝が変色することがあります。

芝刈り作業をする前に必ず「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」の項目を良くお読みになり芝刈り作業にとりかかってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

1 刈取り高さの調整

⚠警告

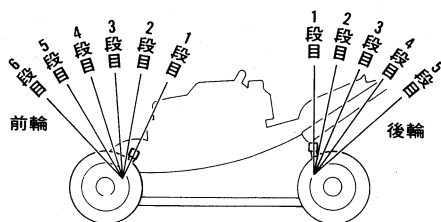
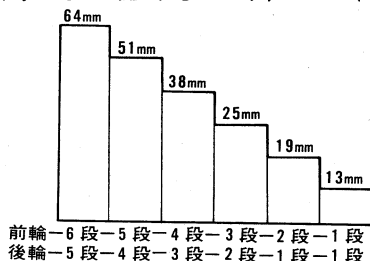
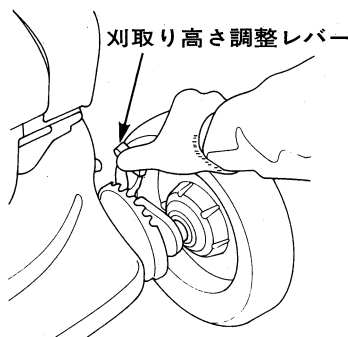
刈取り高さの調整をするときは、エンジンを停止し、各部の回転が止まっていることを確認してください。また誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップをはずしてください。

刈取り高さ調整レバーにより前側 6 段階、後側 5 段階まで調整ができます。調整レバーは前輪、後輪とも左右両側にあります。

《調 整》

1. 厚手の手袋をし本機を少し持ち上げてください。
2. レバーをタイヤ側に引き、調整溝に入れてください。

- 伸びた芝を刈取る場合は最初刈取り高さを高くして刈取り、次に刈取りたい高さまで低くして刈取ってください。



取扱いのポイント

- ・ 刈取り高さ調整レバーの位置は上記の表のようにしてください。本機が不安定になったり、仕上がりが不均一になることがあります。
- ・ 確実に調整レバーが溝とかみ合っていることを確認してください。
- ・ 芝地の条件により、刈取り高さは多少変化することがあります。

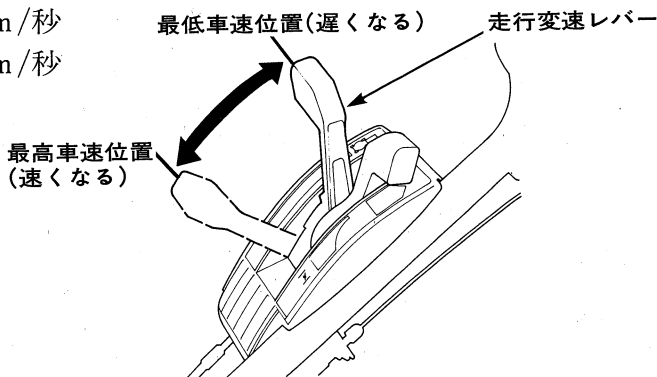
2 走行変速レバー

芝の状態、作業者の歩行速度に合わせて操作してください。

- 無段変速（細かいノッチが付いています）で、走行中の変速も可能です。
- 走行クラッチ レバーをゆっくり握れば、ゆっくり走行を始めます。走行の始めのショックもなく、静かに発進できます。タイヤ スリップによる芝の傷みも防ぐことができます。

最低車速位置 約0.85 m/秒

最高車速位置 約1.65 m/秒



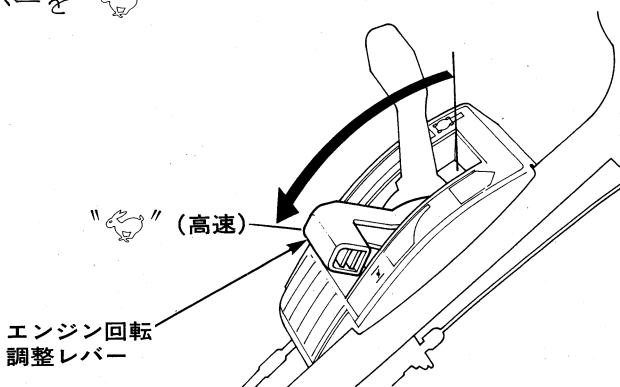
3 エンジン始動

22頁のエンジン始動要領に従ってエンジンを始動します。

4 運転操作

1. エンジン回転調整レバー

エンジン回転調整レバーを "🐣" (高速) にします。



⚠ 注意

本機からはなれる場合は必ずエンジン回転調整レバーを"停止"位置にしてください。

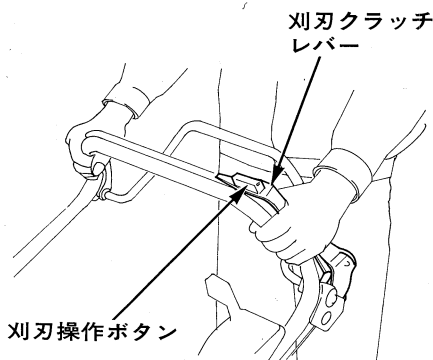
2. 刈刃クラッチ レバー

刈刃操作ボタンを押して刈刃クラッチ レバーを握り、刈刃を回転させます。

- ・芝の伸びているところで急に刈刃を回転させると、エンジンが止まる場合があります。このようなときはハンドルを押し下げ前輪を少し浮かせるか、芝高さの低いところでレバーを握り刈刃を回転させてください。

取扱いのポイント

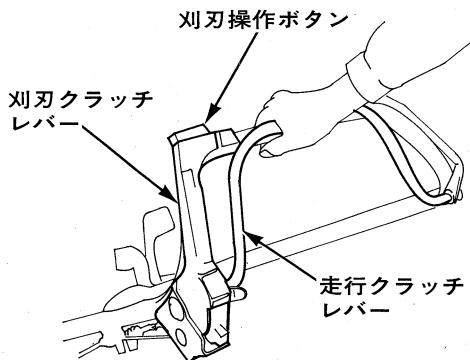
- ・刈刃クラッチ レバーはしっかり握ってください。半クラッチ(レバーをしっかりと握っていない)状態で使用すると故障の原因となります。
- ・刈刃の回転に異常がある場合(エンジンは運転中なのに刈刃が回転しない、または回転が遅い)は、刈刃クラッチ ケーブルの遊びを点検し、必要があれば調整してください。
(調整方法は38頁参照)



3. 走行クラッチ レバー

刈刃操作ボタンを押さずに刈刃クラッチ レバーと走行クラッチ レバーと一緒に握ると本機が自走します。

- ・刈刃クラッチ レバーの刈刃操作ボタンを押さないと刈刃は回転しませんので刈取りをせずに移動ができます。



5刈取り作業

⚠警告

作業中障害物に当たったときは、エンジンを停止し点火プラグ キャップをはずしてから、本機に損傷がないか点検してください。そのまま作業を続けると損傷した部品が飛散し大ケガをするおそれがあります。
損傷した部品を交換するときは、お買いあげ販売店にご相談ください。

《自走刈り》

刈刃操作ボタンを押して刈刃クラッチ レバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分あがったところで走行クラッチ レバーを握り刈取り作業を行います。

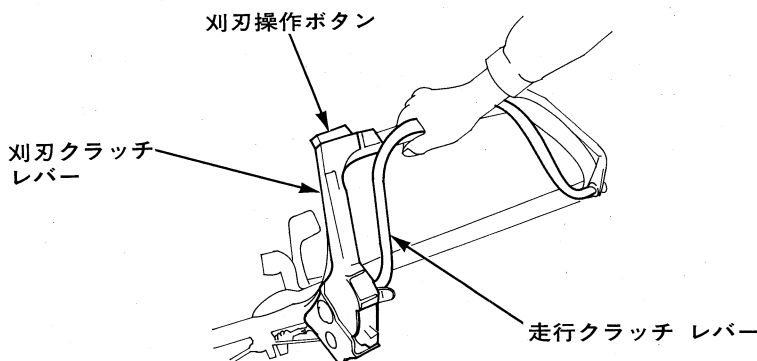
⚠注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、本機の数値に合わせ行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

取扱いのポイント

エンジン回転が低いまま作業すると、エンジンが止まったり仕上がりが不均一になることがあります。

- ・ 方向転換は、走行クラッチ レバー、および刈刃クラッチ レバーをはなし、ハンドルを押し下げながら前輪を浮かして行います。
- ・ 走行中に変速することができます。作業内容に合わせて走行変速レバーを調整します。刈刃クラッチ レバーをはなしでも走行クラッチ レバーで固定されて作業を中断することなく車速の変速が行えます。



《手押し刈り》

⚠ 注意

作業中はハンドルをしっかり握り、足元に十分注意し、走らないで行ってください。芝は滑りやすく転倒するおそれがあります。

刈刃操作ボタンを押して刈刃クラッチ レバーを握ります。刈刃が回転しエンジンの回転が十分にあがったら本機を手で押して作業します。(このとき走行クラッチ レバーは使用しません)

⚠ 警告

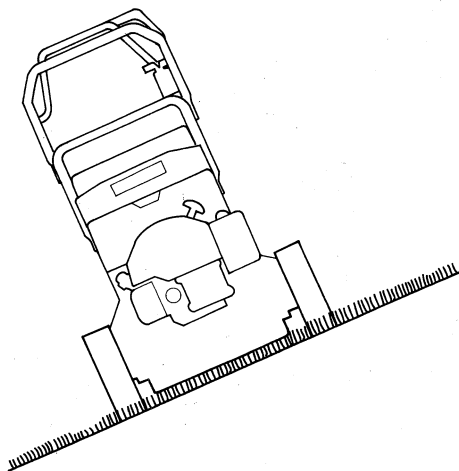
急な斜面や起伏の激しいところでは作業しないでください。斜面や起伏のあるところでは作業性が悪く転倒するおそれがあります。

《斜 面》

- ・斜面での芝刈りは上下方向ではなく、横方向(等高線方向)に行ってください。
- ・斜面上での方向転換は十分注意を払ってください。
- ・急な斜面では本機を使用しないでください。

《起 伏》

- ・起伏の多い所での芝刈りは十分に速度を落とし、足もとに注意してハンドルをしっかり握り作業してください。



⑥ 収納袋の脱着

⚠ 警告

収納袋の脱着は、必ずエンジンを停止してから行ってください。刈刃カバー内の石などの異物が飛び出し大ケガをするおそれがあります。

《取外し方》

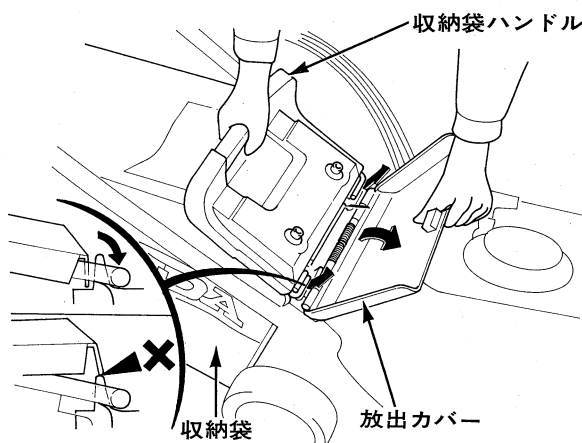
1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋ハンドルを持ち上げながら後方に引いて取外します。

《取付け方》

1. 本機の放出カバーを開きます。
2. 収納袋のフレーム先端を刈刃カバーの溝に合わせて取付けます。

⚠ 警告

- ・ 収納袋が確実に取付けられていることを確認してください。作業中に外れると放出物によってケガをするおそれがあります。
- ・ 収納袋は布製です。すり切れ、破れ、縫い目のほころびなど収納袋が損傷しているときは新しいものに交換してください。石などの異物が飛散しケガをするおそれがあります。

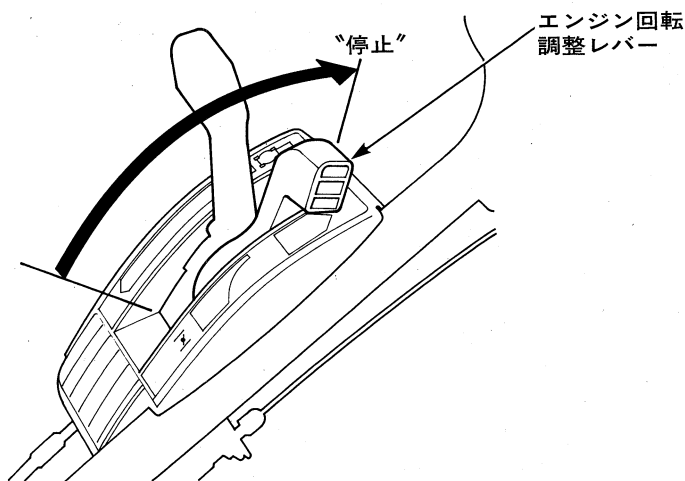


取扱いのポイント

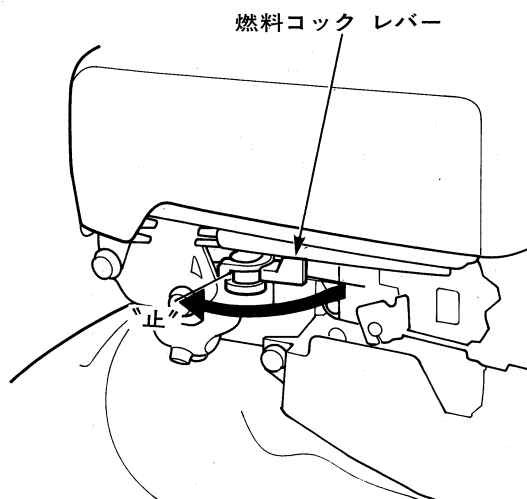
収納袋が目詰まりしているときは収納能力が落ちます。水洗いをし十分に乾燥させて使用してください。

エ ン ジ ン の と め か た

1. 走行クラッチ レバーと刈刃クラッチ レバーをはなします。
2. エンジン回転調整レバーを“停止”にします。



3. 燃料コックレバーを“止”に合わせます。



定期手入れを行いましょ

定期点検

お買いあげいただきましたHonda芝刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

点検時期(3)		作業前点検	1ヶ月目 または初回 20時間運転目	3ヶ月毎 または 50時間運転毎	6ヶ月毎 または 100時間運転毎	1年毎 または 200時間運転毎
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
	交換					○
刈刃クラッチ	点検				○(2)	
点火プラグ	点検・調整				○	
	交換					○
本機廻りの点検各部の清掃		○				
レバーの作動	点検	○				
配線、ケーブル類の点検		○				
エンジンの作動	点検	○				
アイドル回転	点検・調整					○(2)
吸入・排気弁すき間	点検・調整					○(2)
燃焼室	清掃	250時間運転毎(2)(4)				
燃料タンク・フィルタ	清掃					○(2)
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(2)				
刈刃ボルトの締付けおよび刈刃状態	点検	○				
収納袋	点検・清掃	○				
刈刃クラッチ ケーブル	点検・調整					○
走行変速レバー ケーブル	点検・調整					○
エンジン回転調整ケーブル	点検・調整					○(2)
トランスミッション オイル	点検					○(2)

- (1) ホコリの多い所で使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
- (2) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (3) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：1ヶ月目または20時間運転目、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

《推奨オイル》(4 サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正 ウルトラU汎用(SAE10W-30) またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

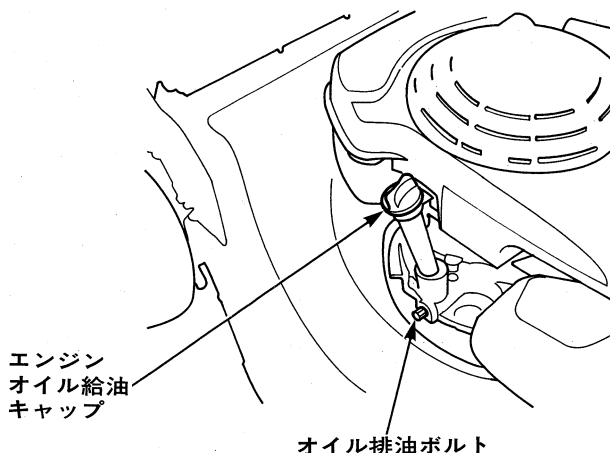
《規定量》 0.65 ℓ

⚠注意

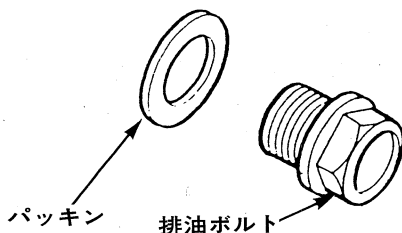
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどなどをするおそれがあります。

《交換のしかた》

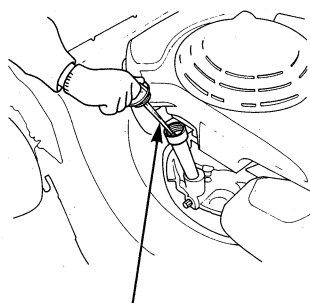
1. エンジン オイル給油キャップを外します。
2. オイル排油ボルトを外して、オイルを抜きます。



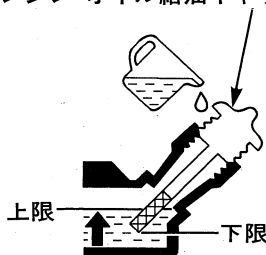
3. オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。そのとき、パッキンは新しい部品に交換してください。



4. エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限ラインまで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。17頁参照)
5. 注入後、エンジン オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



エンジン オイル給油キャップ/レベル ゲージ



エンジン オイル給油キャップ/レベル ゲージ

取扱いのポイント

- ・ 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- ・ オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- ・ エンジン オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

⚠警告

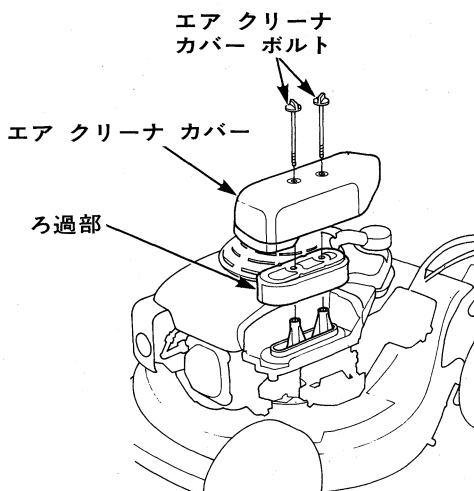
エア クリーナの清掃は、火気のある場所で行わないでください。洗油は燃えやすく、火災を引き起こすおそれがあります。

《清掃時期》

3ヶ月毎または50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は10時間運転毎または1日1回。

1. エア クリーナ カバー ボルトをゆるめ、エア クリーナ カバーを外します。
2. ウレタンのろ過部は洗油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸したあと、かたく絞ってください。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



取扱いのポイント

- ・エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付けかたが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響をあたえます。

点火プラグの点検、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検、調整時期》

6ヶ月毎または100時間運転毎

《交換時期》

1年毎または200時間運転毎

《点検、清掃》

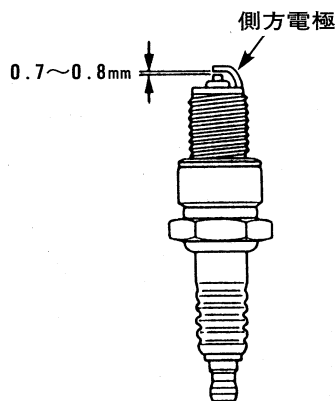
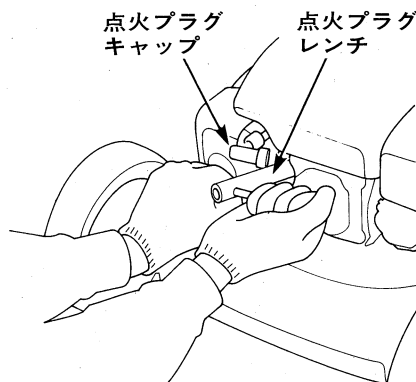
1. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
 2. 点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
- プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。

《調 整》

- 側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。

《標準プラグ》

BPR5ES (NGK), W16EPR-U (DENSO)



取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので標準プラグ以外、使用しないでください。点火プラグの取付けはネジ山を壊さないように指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締込んでください。
- ・点検調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

走行変速レバー ケーブルの点検、調整

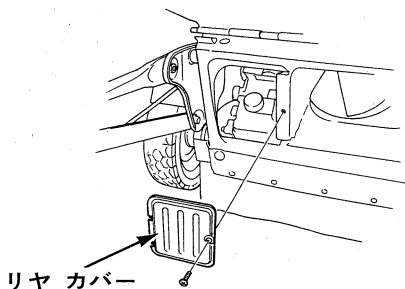
走行変速レバー ケーブルの調整が正しくないと、走行クラッチ レバーを握っても走行できません。

《点検、調整時期》

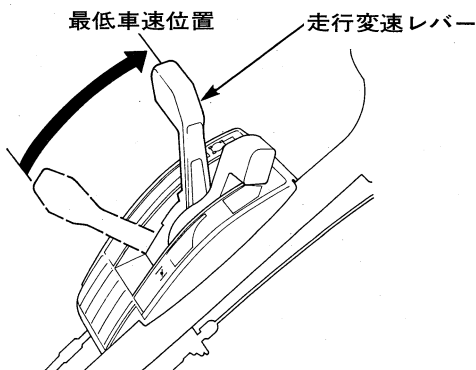
1年毎または200時間運転毎

《点検、調整》

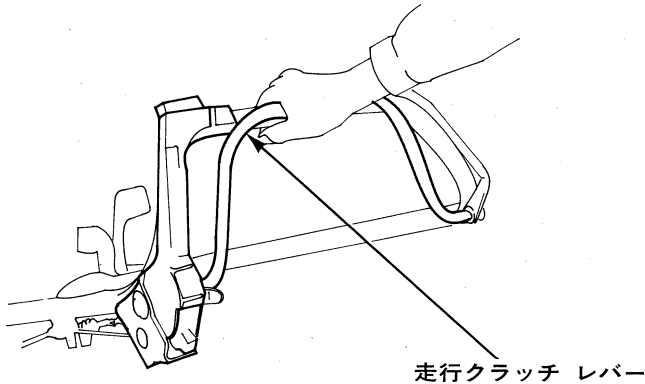
1. 後輪、左右の刈取り高さ調整レバーを1段目の位置にします。(24頁参照)
2. 収納袋を取外し(29頁参照)、放出カバーを開きリヤ カバーを取外します。



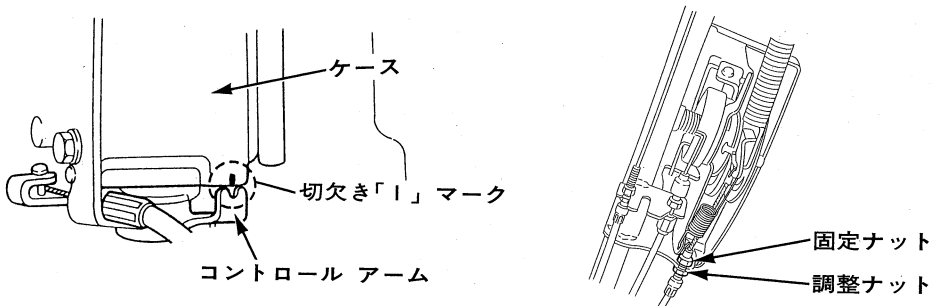
3. 走行変速レバーを最低車速位置に合わせます。



4. 走行クラッチ レバーを握った状態で固定します。(このとき走行変速レバーを動かさないこと。)



5. 変速機本体のコントロール アームの切欠きをケースの「I」マークの中心へ合うように走行変速レバー側の固定ナットをゆるめ調整ナットで調整します。



6. 固定ナットを確実に締付けます。
7. 調整後、リヤ カバーを取付け、収納袋をセットしてエンジンを始動し走行クラッチ レバーが正しく作動することを確認してください。走行クラッチ レバーを握ると本機は走行し、放すと止まります。
8. 上記方法で調整しても走行しない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

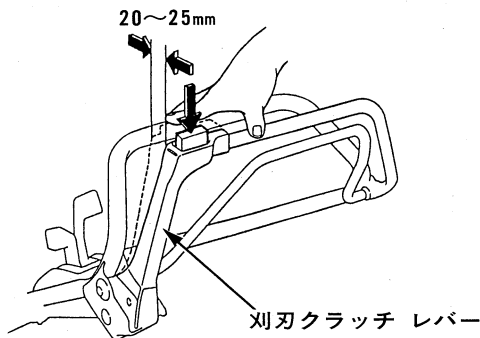
刈刃クラッチ ケーブルの点検、調整

刈刃クラッチ ケーブルの調整が正しくないと、刈取りができなかったり仕上がりが不均一になります。

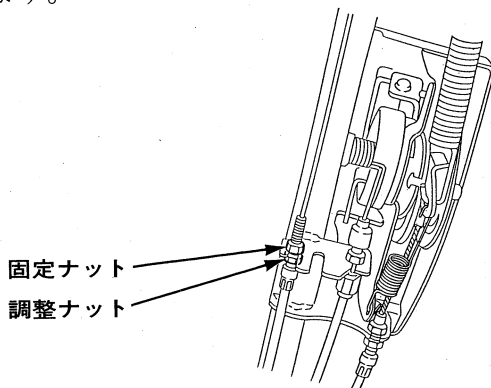
《点検、調整時期》1年毎または200時間運転毎

《点検、調整》

1. 刈刃クラッチ レバーの刈刃操作ボタンを押した状態でレバー先端の遊びが20～25mmになるように調整します。



2. 調整は刈刃クラッチ ケーブルの固定ナットをゆるめ、調整ナットをまわして行います。



3. 調整後固定ナットを確実に締付けます。
4. エンジンを始動します。刈刃操作ボタンを押して刈刃クラッチ レバーを握ると刈刃が回転し、はなすと3秒以内に止まることを確認してください。異常がある場合は刈刃クラッチやブレーキの整備が必要です。お買いあげ販売店にお申しつけください。

長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

★長期間使用しない場合、または作業を終り長時間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、やけどをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから外してください。

①燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜いてください。

⚠警告

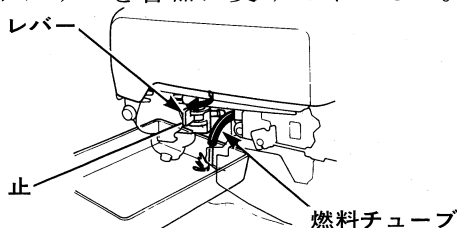
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・ガソリンはこぼれないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

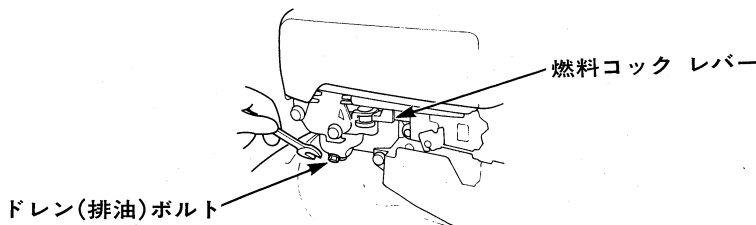
《抜き方》

1. 燃料コック レバーを“止”の位置にしてチューブを燃料コックから外し、タンク内のガソリンを容器に受けてください。

燃料コック レバー



2. キャブレータ内のガソリンは燃料コック レバーを“出”の位置にしてドレン ボルトをゆるめ、容器に受けてください。

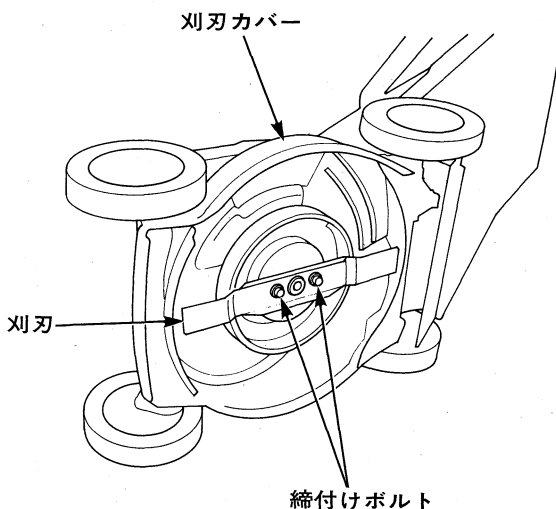


3. 完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態に戻し、燃料コック レバーを“止”の位置にしてください。

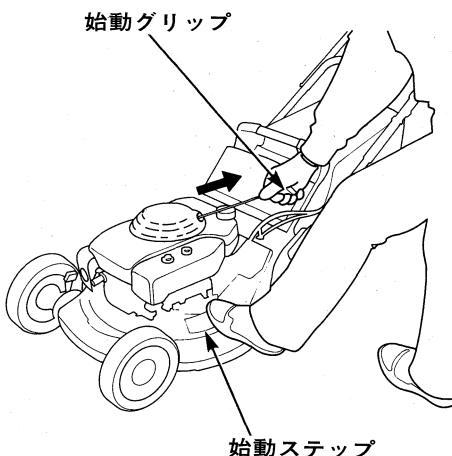
②エンジン オイルを交換してください。(交換方法は32頁参照)

③エア クリーナを清掃してください。(清掃方法は34頁参照)

④本機を右側に傾斜させ、刈刃及び各部を清掃し、締付けを点検してください。刈刃にエンジン オイルを塗布してください。

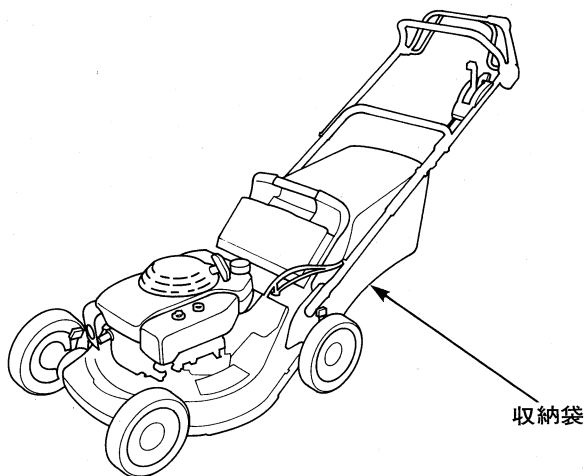


⑤始動グリップを引き、重くなったところで止めてください。



⑥収納袋を清掃してください。

収納袋を取外し、清掃してください。収納袋が目詰まりをしているときは水洗いをし、十分に乾燥させてから取付けてください。



⑦カバーをかけ、風通しの良い場所に保管してください。

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常あるときは、むやみに分解しないで買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（22、23頁参照）
2. ガソリンはありますか？（15、16頁参照）
3. エンジン オイルは規定量ありますか？（17頁参照）
4. 点火プラグ キャップは確実に取付けられていますか？（35頁参照）
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（35頁参照）
 - ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確かめましょう

⚠注意

本機に異常を感じた場合はただちに作業を中止し、エンジンを停止して各部を点検してください。

1. 刈刃クラッチ レバーを握っても刈刃が回転しないときは、
 - 刈刃操作ボタンを押してから刈刃クラッチ レバーを握っていますか？
 - 刈刃クラッチ ケーブルの調整は正しいですか？
2. 刈刃クラッチ レバーを放しても刈刃が3秒以内に止まらないまたは全く止まらないときは、
 - 刈刃クラッチ ケーブルの調整は正しいですか？
3. 走行クラッチ レバーを握っても走行しないときは、
 - 走行変速レバー ケーブルの調整は正しいですか？
4. 走行クラッチ レバーを放しても止まらないときは、
 - 走行変速レバー ケーブルの調整は正しいですか？
5. 走行変速レバーを最高速位置にしても最高車速が出ないときは、
 - 走行変速レバー ケーブルの調整は正しいですか？
6. 芝刈作業時、芝の刈跡が悪いときは、
 - 刈刃に異状がありませんか(19～20頁参照)
7. 芝刈作業時、収納袋まわりから芝が吹き出すときは、
 - 収納袋はきちんと本機に装着されていますか？
 - 収納袋はやぶれていませんか？

☆上記項目で調整が必要な場合は、36～38頁に従って調整してください。調整できない場合は、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主 要 諸 元

名 称	HRC216
型 式	MZAN

エ ン ジ ン

形 式	強制空冷 4 サイクル 頭上弁式
排 気 量	163cm ³
内 径 × 行 程	68×45mm
点 火 時 期	上死点前20°
点 火 方 式	トランジスタ マグネット式
オ イ ル 容 量	0.65 ℓ
燃 料 タ ン ク 容 量	2.0 ℓ
点 火 プ ラ グ	BPR5ES (NGK), W16EPR—U (DENSO)

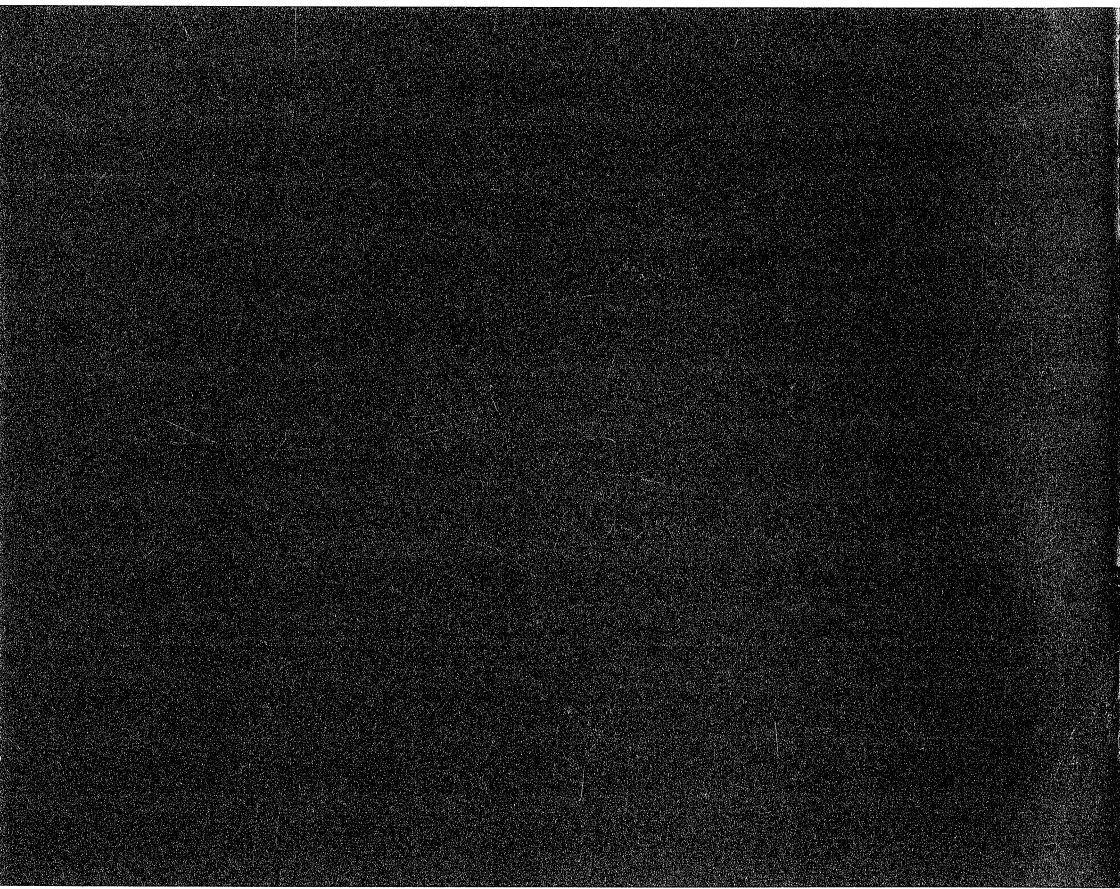
フ レ ー ム

全 長	1,665mm
全 幅	565mm
全 高	1,020mm
刈 幅	約530mm
刈 高	約13～64mm (前 6 段階、後 5 段階)
収 納 袋 容 量	83 ℓ
乾 燥 重 量	57kg

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

HONDA

The Power of Dreams



30VB5602
00X30-VB5-6022

HPE
© 2003 本田技研工業株式会社
S N 300.2003.10